

令和5年度 第2回豊田市地域保健審議会

開催日時：令和5年11月15日 午後2時～午後3時30分

場所：豊田市役所 南庁舎7階 南74委員会室

出席者（敬称略）：加藤真二（会長）、田代和久（副会長）、安藤広重、岩月幸雄、大橋一之、酒井恵子、重松良祐、谷友一郎、中出美代、長谷川喜代美、吉田哲也

（欠席者）：宮澤清人

（市側出席者）古澤保健部長、竹内保健所長、佐野保健部副部長、伊地知総務課長、近藤保健衛生課副課長、河合感染症予防課長、長島地域保健課長、寺田保健支援課長、宮川こども家庭課長、野嶋感染症予防課感染症業務担当主幹、鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹、都築総務課副課長（司会）

●古澤保健部長
豊田市挨拶

●竹内保健所長
豊田市挨拶

○加藤会長
審議会会長挨拶

議事

【協議事項】

（1）健康づくり豊田21計画（第四次）案について

○重松委員

（仮称）豊田市健康づくり運動プラン（第四次）策定委員会において、会長を務めております重松と申します。本会は、10月25日に、令和5年度第3回の策定委員会を開催いたしました。詳細につきましては、事務局の方から説明をお願いいたします。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹
健康づくり豊田21計画（第四次）案について説明

○加藤会長

説明が終わりましたが、内容につきまして、ご意見ご質問がありましたらよろしくお願いたします。まず、重松委員から何かございますか。

○重松委員

たくさん議論させていただいて、資料 1 にすべてが集約されているという形になっております。今までに少しあったのが、最初の名称の「健康づくり豊田 21 計画（第四次）」のところ、「健康日本 2 1」は第三次なのですが、豊田では一足先に行っていたということがあったので、第三次じゃなくて第四次ということが議論され、確認をされました。あと 2 番目のところに「プラス 10（じゅう）」というのがあります。これも、厚労省とかではプラステンという形で英語になっているのですが、ここも今までの流れを引き継いで日本語で、10（じゅう）でいこうということを決めております。ただ、「例えば」にありますように、この野菜 10 口、10 分運動、それから 10 分早く寝ると言うのはあくまでも例なので、各健康の分野でそれぞれまたいろんなアイデアを出し合って、こういうスローガンに結びつけていてもらいたいなという話も出ておりました。

○加藤会長

ただいまの話も含めて、ご意見・ご質問はありますでしょうか。

この「プラス 10」というものを、今のモニターのパブリックコメントのところで、市民の活動が浸透していくことを願うというような、そういう仕組みをやっていこうということなんですけれど、具体的に、この「プラス 10」というものに対しては、単に何かいいこと「10」やろうねということではなく、この計画を見た上で「10」を考えましょうというような流れでないと、なかなかこの計画自体を見てもらえないのではないかと思いますのですが、いかがでしょうか。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

計画そのものを全部見てもらうというのはなかなか大変だと思うので、この計画の冊子以外に概要版も作成しております。A3 両面ぐらいのボリュームで作ろうと思っていて、そこで主な取り組みなども紹介しつつ、市民の皆様には、プラス 10 ということで、健康づくりに取り組んでくださいというような、そんな周知の仕方をしていけたらと考えております。

○加藤会長

本当に周知というものはすごく難しいものだと感じています。田代委員何かございますか。

○田代委員

先ほどからお話が出ております、計画のスローガン、合言葉「プラス 10」というようなことは、非常にわかりやすく、すっと頭に入ってくるんじゃないかなと思っております。非常によろしいかなと思っておりますので、例えば、野菜 10 口などいろいろとありますが、中身をもう少し充実させていただいて、このスローガンを活かしていけるような計画になるといいかなと思っております。よろしくお願ひいたします。

○中出委員

この「プラス 10」ですが、豊田市さんでは大分前から取り組まれていると思うのですが、今までその取り組みをやって、何か効果が上がったというようなエビデンスは出ているのでしょうか。そういうものがあつたらそれを示していくとよいのではないのでしょうか。あと、どこかで、モデルケースで実践したら健康になったというようなものがあつたら迫力があるかなと思うのですが、いかがでしょうか。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

プラス 10 のエビデンスについては、正直そこまでのデータは把握しておりませんので、そういったところも少し意識していかないといけないのかなというところは、お話を聞いて感じたところです。いろんな実践例がこれから出てくると考えておりますので、そういった実践例をうまく市民の皆様を紹介しながら、取り組みが広がっていけばいいのかなと考えております。チラシなどだけでなく、実際に、例えば市長とかに実践例みたいなものを紹介していただくとか、そういう著名な人に紹介してもらうこともやり方としてはありなのかなと感じているところです。

○中出委員

豊田市さんのホームページを見ると、健康について、野菜とか運動とかについてのリーフレットが紹介されています。著名な人に取り組んでもらうのもいいのですが、どこかでモデルケースのように取り組んでいただいたらうまくいったというような情報を紹介する方が、市民に響くのかなと個人的には思います。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

ありがとうございます。これから、企業さんとか、学校とか大学さんとかと連携していかないといけないかなと思っておりますので、そういったところと連携して、モデルみたいなこともできればいいのかなと考えております。

○岩月委員

パブリックコメントの反映というところの、心の健康づくりの推進というところですが、ここに民間企業という言葉が出ております。今、働き方改革が進められている中で、残業時間が100時間超してはだめというようなものがあるのですが、例えばメンタルを病んで休職するとか、退職するとか、いろんな事例が発生しています。重点取組の4の方に反映されるということですがどう、それがどこなのかをお聞きしたいです。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

本編の冊子の28ページをご覧ください。主な取り組みの欄の②にゲートキーパー養成研修の拡大というところがあると思いますが、こちらの2行目の後半に「民間事業者等を対象とした研修等を実施していきます。」とあります。企業さん、それから学校さん、学校の先生などを想定した研修を今、実際には実施できておりませんので、そういったところまで拡大して実施していきたいと考えているところです。

○岩月委員

この、心の健康というテーマは、私たち健康づくり協議会でも扱ってはみたんですけれども、非常にアプローチが難しくてですね、実態としては、なかなか手が出せないところかなという印象を持っておりますけども、すごく大事なことなので、また、特に民間の事業者さんなんかは、しっかりとこういうところに入っていただいて、必ずしも働き過ぎだけではなく、いろんな要素があると思うんですけども、そんなところから、心を病んで仕事が継続できなくなったような方への支援は大切だと思いますので、その辺りをしっかりやっていただけたらなと、そんな感想を持ちました。

○大橋委員

今の、心の健康のところ、うちもそうですけれど、2020年の6月から、ハラスメント系については、法改正されて厳しくなったということで、企業側も非常にそういったところを意識しておりまして、管理職に、部下に対する接し方など、ハラスメントの教育を実施している企業が増えていると思います。ただ、どこまでがいいのか、怒るのと叱るのとの違い、こういうものはいけないが、こういうものは指導だよ等、そういう研修をやっている企業もありますので、参考までにご報告させていただきました。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

そういった話までは、こちらも把握していなかったもので、参考にさせていただきたいと思います。

○加藤会長

これも参考までのご報告ですが、この前のサミットの時に来てくれた、松戸の医師会の医師会長といろいろ話をしている中で、あそこは医師会が小学校、中学校に行って、健康講座をやるんですね。小学生にしっかり話をして、それを必ず親に言うようにと話をするらしいんです。義務教育の子たちの親というのが、ちょうど一生懸命働いて子育てもやらなきゃという世代で、自分の健康にあまり頓着のない世代なので、小・中学生を通して、親にアプローチしようとしていると聞きました。もうちょっと上の世代になると、自分たちの健康に気を使い始めるので、アンテナが出るんだけど、子どもの親たちはアンテナが出ていないので、そこに向けて情報を届けるにはその方法ぐらいしかないんじゃないかと言っていました。そういう取り組みもあっていいのかなと思ったりしました。あと、この同じ 28 ページの③番にありますように、小中学校生を対象に SOS の出し方を教育するっていうのは、今度、医師会も動いて、拳母小学校で今月末にやります。エンドオブライフケア協会にもサポート受けて、小学生に命の大切さを教えてそれを親にも伝えていくというそういう仕組みを作るといっているので、紹介いたします。

○吉田委員

今の話と同じような形にはなるのですが、今、10 代のオーバードーズがものすごく問題になっていると思います。直近の問題として、これも加えていただければと思います。薬剤師会としても、薬物乱用防止という意味では、小学校から教育をした方がいいという話をさせてもらっていますが、その中でオーバードーズも含めてやらせていただいている学校も結構あります。たしか、オーバードーズは、4～5年前の10倍ぐらいに増えているというデータが出ていたはずで、10代は非常に重要な時期でもありますので、そのあたりのところを関連付けて、お願いできればと思います。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

策定委員会でもオーバードーズの話はご意見いただいておりますが、資料 1 の左側の体系の施策メニューの、飲酒喫煙薬物乱用等に関する啓発の推進というところで、具体的には薬物乱用に関する正しい知識の理解促進という形で、薬剤師会さんとも連携しながら進めていきたいと考えております。

○安藤委員

この計画に、この春から関わらせていただいておりますけれど、非常に多岐に渡って、いろいろな切り口でしっかりと検討された、素晴らしい計画だと思います。福祉の立場からすると、重点取組 4、多様な支え合いによる生きることの包

括的支援の推進ですね、こちらが福祉の主な分野になってきますけども、人間は、健康という分野と福祉という分野を切り分けるものではなくて、1人の人間の中に両方のサービスやいろいろなものが必要ですので、そこを一緒になって進めていけたらなと思っております。そういう中で、計画の推進体制の中に、二つの部会を想定して、福祉の分野も入れていただいておりますので、せっかくの良い計画が絵に描いた餅にならないよう、一緒に進めていきたいと思っております。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

計画を進めていく上では、社協さんとの連携は不可欠と思っております。特に地域における様々な会議体への参加ということで、社協さんが今年度から始めております多機関連携の取り組み会議に参加をさせていただいて、関係機関との連携を深めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○谷委員

私たちは、こういう分野に直接は関係ないのかもしれませんが、動物を飼育することで、市民の心の安定や不安な気持ちの解消に努めていきたいと思っております。例えば小学校でウサギなどの学校飼育動物を飼育したりして、その命の大切さを伝える事業も行っております。ささやかながら、そういう形でご協力できたらいいなと思っております。

○酒井委員

とても前向きにこの計画を立てて、この「プラス10」ということも、誰しも、何か自分自身で健康のためにいいことを考えながら、自己課題で取り組める計画であると思っております。本当に、命を大切にしていう、言葉では簡単に言うんだけど、これだけ、うつの方だとか、ひきこもりや不登校、心の病、それから産後のうつとか、今、父親でもうつが出はじめているという状況だと聞いています。何か、ものすごく、人間にとって何を大事にしなければならないのかということを考えさせられる世の中になってきたなあということですので、ぜひ強化して取り組みの方を推進していただけたらありがたいと思っております。

○加藤会長

本当に、心の健康づくりは大切なところかなと思っております。

ほか、よろしいでしょうか。重松委員の本当に運動から来る本当の意味での健康づくりっていうところと、あと皆さんが言われた心の健康づくり、この2つの大きな柱があるかなというふうに思いますが、この計画に沿って進めていただくという形になるかと思っております。そのほか、いかがでしょうか。

質問ですが、さきほど言われた 28 ページの小中学生を対象とした事業というのは、実際にはどのようなことをやっているのでしょうか。

●鷹見総務課健康づくり業務担当副主幹

先ほどありましたような SOS の出し方教育ということで、各学校が計画を立てて、道徳の授業などでそういった教育をしていると聞いています。教育委員会が主導してやっていて、ここにも書いてあります、ハートサポートプログラムに沿って進めていると把握しております。

○加藤会長

ありがとうございます。あと、何かありませんか。よろしいですか。よろしいようでしたら、ここまでのこの話で、答申をまとめて、来週、市長に渡すという形になりますので、それで了解していただけますでしょうか。

(異議なし)

○加藤会長

では、そのようにしていきたいと思います。最終的な微修正等につきましては、会長と、策定委員会の会長で、事務局と実施させていただきたいと考えております。よろしく願いいたします。それでは次の議題に入りたいと思います。

【報告事項】

(1) 豊田市感染症予防計画の概要（中間とりまとめ案）について

●河合感染症予防課長

豊田市感染症予防計画の概要（中間とりまとめ案）について説明

○加藤会長

ただいまの説明につきまして何かご意見ご質問はございませんか。

○重松委員

専門ではないので、教えていただきたいという意味での質問です。これはいわゆる人対象なののでしょうか。

●河合感染症予防課長

そうです。

○重松委員

これは予防計画なので、今からの質問はどちらかという、始まってからの話になるのかもしれませんが、日本では、コロナの時に、マスクの確保で皆さん右往左往しましたが、台湾では仕組みを作りましたよね。マスクはここにありますか。オンラインなどでそういう仕組みなどがあつたらいいのかなと思いました。あと、病院の関係者さんが HER-SYS ですごく苦勞されたとか、一般人には cocoa がありました、あまりうまくいかなかったような感じがありました。ただ、これは予防計画なので、今、質問している内容は範疇を超えているのかもしれないですけど、もしその辺の情報があつたら教えていただきたい。あとは、聞いていて、防災の分野との親和性がすごく大きいなと思いましたので、そのあたりの話が今詰められているのかということをお聞かせいただければと思います。

●河合感染症予防課長

まず、備蓄につきましては、すでに市で行っているものもありまして、なかなか市民の皆さんにお配りするところまでは十分に賄えていないかなと思っておりますが、内容は引き続き見直しを進めて参ります。備蓄内容も、来年度以降の行動計画の議論の中で、どれぐらいの備蓄量が適正かといった議論がなされると思っておりますので、そちらでも詰めていきたいと思っております。次にシステムに関する事なんですけれども、なかなか国全体で取り組むべきところと、単市で取り組むべきところの切り分けが難しいところもありますので、cocoa や HER-SYS みたいなところは国の動向を慎重に見極めながらということもありますけれども、現状、患者さんが発生した後に、いろんな情報を蓄積する国全体のシステムがありますが、それを自治体レベルでもより積極的に活用を進めていきたいですとか、そういった取り組みを少しずつですけど ICT の活用を進めたいと思っております。あと、防災との親和性は高い部分があると思っております。いざというときに人を招集したり、備蓄品をうまく活用したりというところで、市の内部でも、防災の知見を活用させていただきながら、内容を練っているところです。感染症対策によって人を集めたり、物を動かしたりという経験がなかなか今まで少なかったのが、またパンデミックというのが、災害に比べると、発生頻度が低いかなという印象もございます。そういった中で難しい部分もあるのですが、防災の仕組みは活用させていただきながら、計画内容にも反映できる部分は反映させていきたいと考えています。

○岩月委員

第 8 の感染症に関する適切な情報ということになりますけれども、私たちの健康づくり協議会っていうのは、どちらかというと素人のボランティアさんで活動しているということで、今回のコロナの時に、初期にはとりあえず活動を控えていましたが、それを緩和して、じゃあ次、活動を再開しようとか、どこまで活動していいのかっていうような時の判断が非常に難しいと思っております。5 類になっ

たからということで、活動自体は徐々に戻っていますが、例えばマスクの着用を考えた場合、テレビで見るような外国の事例ではマスクなんかもう随分早くからやめてしまって、人がかなり集まっているようなところでもほとんどマスクをしていないというようなことがあります。日本では今でもマスクを外せない人がたくさんいるという状況だと思います。規制する時はともかく、緩和する時には、どのような形で情報が得られるのかという問題と、それからもう一つは、市は確実な情報ということで出してくるので、割と慎重に情報出されるというふうに思いますね。ところが、今、SNS などでは、はっきり言ってこれは眉唾だろうというものから、ひょっとしたら一応受けとめておいたほうがいいのかという情報まで、とにかくありとあらゆる情報があります。公としてどこまで適切な情報が提供できるのか、そこら辺のことについて、わかる範囲で結構ですので、教えていただけたらと思います。

●河合感染症予防課長

大変難しい問題かなと思います。新型コロナ対策の中で私も痛感した部分になります。まず、緩和のタイミングの件ですが、やはり感染症の種類ですとか、感染性病原性、あとその時々状況によっても、緩和のタイミングは異なってくるのかなと思いますので、なかなか一律に、事前に計画のレベルで定めるというようなものは難しいと思っています。行政から何かしら制限をかけようと思うと、どうしても私権制限的に解釈されると思いますので、抑制的に判断しなければならぬという中で、いろんな制限もお願いみたいなレベルになってくるのかなと思います。それを緩和するというタイミングを、市民の方々に正しい情報をご提案していただきながらお互いに探っていくというような側面も出てくると思います。そこは次の感染症が発生してからの検討課題になるかなと思っています。次に2点目についても、なかなかお答えが難しいところになりますので、これも状況次第というところでどうしてもなってしまうかなと思います。

○加藤会長

ありがとうございます。ほかにありますか。

医師会の立場からの意見です。この予防計画は、先ほどの説明でも医師会さんという言葉が出てきたように、医師会、薬剤師会など、そういうところとの関係がすごく大事な計画になるので、出来上がってくる途中に、こういう話し合いに参加するという機会があった方がいいのではという気はします。出来上がったものだけが提示されて、それで医師会がそれを受けて動きましょうっていうよりも、医師会の意見を入れるためにも、この計画がまとまる前に、医師会、歯科医師会、薬剤師会というところに、話を持ってきていただいた方が、実務者の意見が反映できるかなと思います。可能でしたらお願いします。

●河合感染症予防課長

承知しました。ちなみに、県の連携協議会の方では、三師会の方々にご参加をいただいております。いろいろな協議を重ねております。その辺はしっかり反映をして参りますので、それも踏まえながら、豊田加茂三師会さんにも情報提供させていただきたいと思っております。あと、この予防計画は、理念的な部分も含めて大枠を定める計画ということで、非常に総論的な計画になると思っております。一方、先ほど申しました他の計画とかマニュアル、特に行動計画になるんですけれども、こちらの方はやや実践的な内容も含んでいます。こちらの策定にあたりましては正式な場を設けて、医師会さんを含めた多くの方々のご意見を反映させていきたいですし、あと市民の方々にもパブリックコメントを実施することになるかと思っております。市民の方々の御意見を直接反映させていきたいと思っておりますので、ご協力を引き続きお願いいたします。

○加藤会長

本当に、今回のコロナで大切なことをいっぱい教わった感じはするんですよ。だからこそ、こういう予防計画というのが、コロナ前に予防計画立てようと思ってもきつとすごく薄っぺらいものになったと思うんですけど、このコロナを超えた段階で予防計画を出すというのは、すごく分厚いものがきつとできるんだろうなと思っております。このハイブリッドの会議体でもそうですよね。コロナがなかったらこんな会議はありえなかったと思っております。来られる人は来て、来られない人でもちゃんと参加できるという会議体ができ上がること自体がすごいことだなと思っております。同じように、今回、いろいろな情報を発信していく中で、個人情報を守るというところに偏りすぎて、逆に市民が不安に思ったところとか、そういうところもあったりまして、いろいろな反省点とか、ためになる点っていうのが今回はあるのだと思っております。もちろん、県の動きに従ってというのは大事ですけど、この市は本当に頑張った、頑張ったのを礎にしながら、より良い計画がつかれるのかなっていうのを思います。特に、他の市と比べて、やっぱり中核市ということで、保健所が本気で頑張った、というところだと思うんですよ。私どもは、本当に保健所と市が合体して、メインで動いたというところで、そうすると、かなり深い計画が立てられるのかなと思っております。ぜひ、豊田市らしいものを作っていければと思っております。

○吉田委員

一つお聞きしたいのは、予防計画というのは、基本的にこれだというものを作られるのでしょうか。コロナで感染を本当に広げないために行動規制をして、そのために産業も停滞してという状況が生まれましたけども、死亡者がかなり出ているということであればそこまでは、それほど死亡する確率が高くなければこ

うする、多少感染を広げても産業を守る意味ではこうするとか、何種類という訳ではないですが、パターンのな計画案というのもあり得るのかなと思うんですが、どうでしょうか。

●河合感染症予防課長

予防計画については、大変理念的な計画ということで、実は、国の方で内容のある程度整理がなされてから、自治体の方に投げられてきております。こういった項目は定めなければいけない、この項目は定めた方がいいという形になっていきます。ただ、自治体の裁量で、それらに加えて新しいものを付け加えることができるようになっていきます。本市については、市独自で定めた部分もありますけれども、大枠は国の内容と、あと県が定めております計画とその案になるべく足並みをそろえるように、まとめてきております。ただ、この内容を今後どう見直していくか、何年も先のことになるかもしれませんが、今後どういうふうに変えていくかというところはまた別でありますし、あと、おっしゃられた経済対策など、他の対策とあわせて、市としてどう取り組んでいくかというところは、これに関連する他の計画などと足並みをそろえる中で、どう見せていくかという話になると思います。本市の予防計画はおそらく大枠大筋はこのようになると思いますけれども、対策全般をどう取り組むかというのは、ちょっと他の計画などとあわせながら考えることになります。

○加藤会長

ちょっと質問なのですが、今、第9次総合計画がスタートして、この健康づくり豊田21計画があって、この予防計画もですが、みんな来年度から6年間という期間だと思うのですが。その6年間のために、今いろいろ作り上げて、すり合わせているということなのでしょうか。

●伊地知総務課長

豊田市の施策で、総合計画がございまして、第8次ですけども、第9次は令和7年度からですので、1年ずれております。先ほど説明差し上げました健康づくりは国の方と合わせて、同じタイミングです。また、予防計画は、国の方からの提案もあり、今年度、各自治体で作っていくという形になっていきますので、それと足並みをそろえているところもございまして。ですので、こういった計画を踏まえて、豊田市がどう進めていこうかというのをまた総合計画の方に反映しながら計画を立てていくという段階になっておりますので、これも全部関連しながら進めていくという状況です。

○加藤会長

1年タイムラグがあるというのは、すごく意味があると思います。同じ期間で

動くのはおかしいなと思ったんですけど、1年ずれているのであれば、こういうのも計画の中に入れながらというような形で進められますね。すみませんでした。

○田代委員

今回のコロナのことで、行政、特に保健所については、非常に業務が逼迫していたというようなことがございました。この感染症予防計画につきましては、今後ですね、同じようなことがないように、例えば人員の確保であるとか、そういったところをどのようにお考えになっているのか、目標人数であるとか、そのあたりのところはどのようにお考えになっているのか、ちょっとお聞きしたいなと思います。

●河合感染症予防課長

具体的な人数や数値はこれからになりますが、概ね今回の新型コロナ対策、特に患者さんが非常に多く発生した時に必要となった組織体制みたいなところを、今後も引き続き稼働できるようにしようという想定の中で、事前に班体制を組んでおいて、必要な人員、人数も想定をしておく。先ほどもご意見いただきましたけど、防災が、例えば年度初めの段階で、そのチーム体制が必要な職員を事前に示して割り当ててしまっていくというようなやり方をとっています。同様のやり方をこの感染症対策でも取り入れることができないかなと思っております。年度当初などに人を指名して事前に充てておいて、いざという時は招集しますというお知らせを出していく。感染症が発生しましたら、またパンデミックに至りそうということになりましたら直ちに招集をかけて、準備を始めておくといった流れで速やかに対策体制を構築できないかと思っています。

○加藤会長

今の、そういうシステムを作っておくということがすごく大事かもしれないですね。認知症サポーターさんとか、今回のこのeモニターもそうですけど、何かっていうときに市民の声が受けられるような体制はすごくいいなと思います。

○長谷川委員

第9のところ、人材の整備、公表に関するという事項がありまして、目標のところ、研修に参加する人数だとか、訓練の回数というのは一つの指標ではあると思うのですが、目標に示されている、資質の向上を図るですとか、実効性を高めるということに関して、実際に質が向上できるかどうかなどの評価は難しいとは思いますが、単に研修会を何回やった以外のところでの評価指標のようなものに対するお考え等ありましたら、お聞きしたいと思います。

●河合感染症予防課長

担当する職員の能力的な部分、専門的な知識みたいな部分の評価はなかなか難しいかなとは思っております。この計画の中の研修とか訓練でもですね、到達水準をはかる指標ですとか、あと資格制度みたいなものは現状ございませんので、そこは計画がスタートしてから、やりながらの見込みになるかなとは思いますが、あと保健所の内部で専門職同士での評価の中でお互い高め合っていくというようなことになるかなと思っております。ただ、今後ですね、そのあたりの評価の、単に研修を受けるとかだけではなくて、能力的な評価もできるようになったら、それを市としても取り入れながら対応していきたいと思っております。

○加藤会長

では、一通り終わりましたが、何か今日のこの二つの計画に関して、何かご意見ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

○酒井委員

本当に、中長期計画の中で皆さんが苦勞して計画を立ててくださり、どんな場合でも即行動に移せるという、自分たちがその計画を持っていればこそ動けると思っていますので、期待したいと思えます。そして、一般市民として、ワクチンの接種だとかインフルエンザの予防接種だとか、案内が来るんですけども、有償だとか、高いからとか、なかなかインフルエンザのワクチンを打てないかっていう方もいらっしゃるし、これがどんなものなのかなっていう、豊田市民みんな安全に健康でいるためには、どういった制度にするとよいのか、また検討していただくと、一般市民としましては、負担のないようにしていただくと、健康維持ができるかなということをお思いますのでよろしくお願ひします。

○加藤会長

その他よろしいでしょうか。

全体について少し話をさせていただきます。計画は、やはり、PDCA を回すというのが本来やらなきゃいけないことなのだろうと思えます。プラン、ドゥー、チェック、アクションという、この四つがあって初めて計画というものになるだろうと思うので、計画して、それをどう実行して、それをどうチェックするのか、アセスメントを取るというのはとても意味があることだと思いますし、目標をどこに置いて、その目標に向かってどこまで達成できたかという評価を行うこともすごく大事な話なのかなと思えます。特に、市民啓発などは、どこまでの市民がこのことを知れたのかということは、ほとんどチェックされていないというような状況かと思えます。チェックをすることによって、もうちょっとやらなければという気持ちにもなると思うので、ぜひその辺りをしっかり認識していただくとよいと思えますので、よろしくお願ひいたします。

その他、よろしいでしょうか。その他がなければこれにて終了となりますが、よろしいでしょうか。

では、ご意見がありませんので、議事についてはこれにて終了したいと思います。これを踏まえて、来週、市長に答申したいと思います。ありがとうございました。

— 以上 —